

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17083002

研究課題名（和文）

日中通俗文芸の体系化を目的とした先駆的研究——小説・芸能を中心論題として

研究課題名（英文）

Pioneering Research of systematizing Japanese and Chinese Popular Literature

—Mainly about novels and entertainment

研究代表者

勝山 稔 (KATSUYAMA MINORU)

東北大学・大学院国際文化研究科・准教授

研究者番号：80302199

研究成果の概要（和文）：

本研究は、小説を中心に日中通俗文芸研究の体系化を目的とした研究を実施した。テーマ①「日本文化の原形として見た中国文言小説の分析」では、中国人の海のイメージとその変遷について古小説資料を用いて明確化した。またテーマ②「近代日本に於ける中国通俗文芸の伝播」は、殆ど解明されていなかった明治以降の白話小説の翻訳の事跡を解明した。テーマ③「『金瓶梅』の日本受容状況の調査」は、江戸時代『金瓶梅』は中国語のテキストや医学・薬学的実用書としても読まれていた事実を分析した。またテーマ④「宋代文言小説の版本調査」は、関西大学内藤文庫所蔵の『太平広記』版本の調査を実施し、その特色およびその重要性を紹介した。

研究成果の概要（英文）：

This research is to systematize the research mainly about novels of Japanese and Chinese Popular Literature. The four themes been researched are below. On theme 1 "An analysis of Chinese classical tales as an original form of Japanese culture", Chinese people's image to sea and its changes were made clearer using materials of old novels. Second, on theme 2 "The propagation of Chinese popular literatures in modern Japan", the trace of Chinese vernacular novels from Meiji period onward was clarified which was not discussed until recently. Third, on theme 3 "The research on the acceptance of "Jin Ping Mei" in Japan", the fact that in Edo period "Jin Pin Mei" was read as a Chinese textbook and also as a practical book of medicine and pharmacy has been clarified. Lastly, on theme 4 "The text research of the Chinese classical tales in Song dynasty", the research of the text "Tai Ping Guang Ji" from Naito collection in Kansai University was conducted and introduced the character and the value of the text "Tai Ping Guang Ji" in Naito collection.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	3,100,000	0	3,100,000
2006年度	3,100,000	0	3,100,000
2007年度	3,100,000	0	3,100,000
2008年度	3,100,000	0	3,100,000
2009年度	3,100,000	0	3,100,000
総計	15,500,000	0	15,500,000

研究分野：中国古典小説

科研費の分科・細目：

キーワード：「白話小説」「訓読」「井上紅梅」「太平広記」「文言小説」「金瓶梅」「日本」「受容」

1. 研究開始当初の背景

本研究の着眼点は、日本中国に於ける通俗文化とその交流の研究を遂行する上で、必要不可欠にもかかわらず研究が看過されていた領域の基礎研究を集中的に取り組み、従来の研究に見られない新境地を開拓することであった。

日中の通俗文化は、双方の交流を介して一種共通する文化を享受していたにもかかわらず、従来の研究は、日本文学や中国文学という範疇で分断され、それぞれの研究分野の都合で個別的に研究されることが多いため、例えば日本の事例では十分に考察されている分野であっても、中国では等閑に付されたまま放置されているなど、日中通俗文化の相互対照すら困難な領域も存在する。また双方の研究分野は、自己の研究分野の既成概念に沿って研究ビジョンを構築するため、相互の研究分野の研究状況に極めて疎く、双方の研究結果が有機的に結びつくことが少なかった。

本研究はかかる学界の盲点や矛盾を是正する必要を痛感して企画されたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、将来的な日本・中国を越えた通俗文化の網羅的・体系的研究を実現するため、事前に日中通俗文化の研究状況を調査し、如上の体系的研究遂行上支障を来しかねない「基礎研究が看過されている」分野を特定し、その中でも中国通俗文芸評論や中国江南地域を中心とする戯曲（曲芸）研究、そして明治文壇における中国通俗文芸の影響というテーマを取り上げ、学界の既成概念にとらわれない若手研究者を指名して、従来の研究に見られない新境地を開拓する先駆的な研究を図ることとした。

3. 研究の方法

研究の方法は研究代表者及び分担者の個別テーマによって方法が異なる。中国における通俗文芸の主要領域（文言小説・白話小説・戯曲芸能）から、各班員の個別テーマ（①日本文化の原形として見た中国文言小説の形成過程の分析、②中国小説・戯曲、及びその両者と双方方向での影響関係の認められる説唱文学——特に弾詞の地域文化的側面からの考察、そして③明清～民国代における中

国通俗文芸の日本への伝播と影響、④『金瓶梅』の日本伝来と初期段階における受容状況の調査、⑤宋代言言小説の版本調査）という五つのテーマを取り上げ、日本・中国を越えた通俗文芸の網羅的・体系的研究を実現することを目的とした。

4. 研究成果

勝山は、江戸文学における読本研究と、昭和30年以後に行われた東洋文化協会（全譯中國文學大系）や平凡社（中国古典文学全集・中国古典文学大系）による訳業ばかりが注目される中国白話小説の受容史の現状を打破するため、主として明治以後の「中国白話小説の日本への受容」に関する網羅的体系的な考察を行うこととした。本研究では中国白話小説の代表的作品として知られる「三言」（『古今小説』『警世通言』『醒世恒言』）を中心に、明治時代から昭和30年代までにおける「三言」の受容者について考察した。その結果、従来、殆ど解明されていなかった明治以降の白話小説の受容及び翻訳に関する事跡の大半が一気に明らかになり、中でも宇佐美延枝、東吐山、金國璞、佐藤春夫、星野蘇山、鈴木真海、今東光、伊藤貴麿、柳田泉、増田渉、井上紅梅、榛原茂樹など従来翻訳の存在自体が知られていなかった人物に関して多くの新見解を提示することが出来た。特に受容史の中で最も大きな功績を挙げながら従来の研究ではその存在自体も知られていなかった……つまり今回の科研プロジェクトで初めて発見された中国風俗研究者・井上紅梅（1881～1950）による20年近くにわたる『今古奇観』の翻訳の経緯を精査することが出来た。また短篇白話小説集「三言」の発見の経緯について詳細に分析を試み、従来塩谷温の発見と見なされていた「三言」は、実際には長澤規矩也や辛島驍によって発見されていた事実を明らかにした。

高西の成果は、大きく二つに分けられる。第一点は、古代から唐代までの中国人の海のイメージとその変遷を、古小説資料を用いて明らかにしたということである。さらに、海に人びとが想像した異界のイメージの研究も行った。その結果、環シナ海・環日本海を挟んで、日本とも異界イメージは共鳴し合う点があることも明らかにした。成果の第二点は、大正時代の中国文言小説の受容の一端を、田中貢太郎という人物を分析することを通して明らかにしたということである。その上

で、大正期の中国小説の受容にあたって、田中貢太郎の果たした役割が大きいことも指摘し、現在は少し忘れ去れた存在になっている田中貢太郎の再評価を行った。

川島は、従来「淫書」であるが故に日本では（表向き）あまり受容されなかったとされた『金瓶梅』が、江戸時代においては他の白話小説と区別されることなく受容されていたこと、そして単なる文学作品としてだけでなく、中国語のテキストとして、また医学、薬学的情報を含む実用書としても読まれていたことが明らかとなった。また、「玉里本」や、同じく江戸時代に作られた『金瓶梅』の語釈集（「金瓶梅訳文」）の調査を行った結果、江戸時代に『金瓶梅』の和刻本や訳本が刊行されなかったのは、それが「淫書」だったからではなく、「難解」だったからではないか、という結論も導き出すことができた。

塩は、関西大学内藤文庫、静嘉堂文庫、国立公文書館、宮内庁書陵部、蓬左文庫といった国内の諸機関に所蔵されている『太平広記』の諸版本に関する調査を通じて、1、関西大学内藤文庫所蔵の『太平広記』版本の調査および内藤湖南の著作からみた湖南の唐宋文言小説観およびその受容の様相、2、内藤文庫所蔵の『太平広記』談愷刻本の版本の特色およびその重要性の紹介、3、静嘉堂文庫所蔵の唐宋文言小説、特に『太平広記』からみた明治期日本における唐宋文言小説受容の様相、4、蓬左文庫所蔵の『太平広記』からみた近世日本における唐宋文言小説受容の様相、5、『夷堅志』明州（現寧波）関連記事の訳注作業、の研究を実施した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 28 件）

(1) 勝山稔、「古典小説研究およびその史学的研究への活用」、『日本宋史研究の現状と課題——1980年代以降を中心に——』、査読有、P281-P307、2010年

(2) 勝山稔、「近代日本における白話小説の翻訳文体について——「三言」の事例を中心に——」、『「訓読」論Ⅱ——東アジア漢文世界の形成——』、査読有、掲載確定、2010年

(3) 川島優子、「白話小説はどう読まれたか——江戸時代の音読、和訳、訓読をめぐる——」、『「訓読」論Ⅱ——東アジア漢文世界の形成——』、査読有、掲載確定、2010年

(4) 勝山稔、「運用中国古典小説の史学性研究之回顧与新展開」、『日本宋史研究之現状与

課題』、査読有、掲載確定、2010年

(5) 高西成介、塩卓悟、「『夷堅志』明州関連記事訳注（稿）（上）」、『高知女子大学文化論叢』、第12号、P94~P104、査読有、2010年

(6) 勝山稔、「「三言」「二拍」発見者再考」、『中国古典小説研究』、第14号、P83-P92、査読有、2009年

(7) 勝山稔、「近代日本に於ける中国白話小説集「三言」所収篇の受容について——神谷衡平と林房雄の訳業を中心として——」、『国際文化研究科論集』、第17号、P164-P182、査読有、2009年

(8) 勝山稔、「近代日本に於ける中国白話小説「三言」所収篇の受容について——村松暎・魚返善雄の翻訳と翻訳層の交代について——」、『国際文化研究科論集』、第17号、査読有、P144-P162、2009年

(9) 川島優子、「江戸時代における白話小説の読まれ方——鹿児島大学付属図書館玉里文庫蔵「金瓶梅」を中心として——」、『中国中世文学研究』、第56号、P59-P79、査読有、2009年

(10) 塩卓悟、「宋代食羊文化と周辺国家——北宋と遼・西夏との関係を中心に——」、『宋代中国の相対化』、P87-P114、査読有、2009年

(11) 勝山稔、「支那に浸る人——井上紅梅が描いた日中文化交流——」、『から船往来——東アジア海域社会と日本文化の形成——』、P289-P313、査読有、2009年

(12) 勝山稔、「『魯迅全集』における井上紅梅の評価について——魯迅による紅梅批判の分析を中心として——」、『国際文化研究科論集』、第16号、P81-P98、査読有、2008年

(13) 勝山稔、「近代日本に於ける中国白話小説『三言』所収篇の受容について——1940年~1945年までの動向を中心として——」、『国際文化研究科論集』、第16号、P99-P118、査読有、2008年

(14) 塩卓悟、「関西大学図書館内藤文庫蔵『太平広記』について」、『汲古』、54、P26-P32、査読有、2008年

(15) 勝山稔、「見捨てられていたパイオニアの遺産——井上紅梅は中国小説研究史に何を残したか——」、『東方』、第330号、P2-P6、

査読無、2008年7月

(16) 勝山稔、「中国通俗文芸受容史における翻訳文体の問題について——佐藤春夫の「百花村物語」を中心として——」、『アジア史研究』、第32号、P429-P453、査読有、2008年

(17) 勝山稔、「近代日本に於ける中国白話小説『三言』所収篇の受容について——1926年～1939年までの動向を中心として——」、『国際文化研究科論集』、第15号、P152-P168、査読有、2007年

(18) 勝山稔、「近代日本に於ける中国白話小説『三言』所収篇の受容について——1910年代～20年代の動向を中心として——」、『国際文化研究科論集』、第14号、P104-P120、査読有、2006年

(19) 勝山稔、「白話小説翻訳史における宮原民平の存在について——『支那文学大観』の事例を中心に——」、『アジア遊学』、第104号、P40-P50、査読有、2007年

(20) 輪田直子、「方言文芸は海を越えるのか——弾詞と日本」、『アジア遊学』、第104号、P63～P71、査読有、2007年

(21) 高西成介、「田中貢太郎と中国の怪談」、『アジア遊学』、第104号、P63-P71、査読有、2007年

(22) 勝山稔、「海域を越える文芸」、『アジア遊学』、第104号、P4～P9、査読有、2007年

(23) 川島優子、「江戸時代の『金瓶梅』」、『アジア遊学』、第104号、P19～P30、査読有、2007年

(24) 塩卓悟、「唐代言言小説と内藤湖南——『太平廣記』を中心に」、『アジア遊学』、第104号、P111～P119、査読有、2007年

(25) 輪田直子、「文人彈詞」制作の背景——春谷先生校『何必西廂』を例に」、『文芸論叢(若槻俊秀先生退休記念論集)』、55号、P431～P449、査読有、2007年

(26) 高西成介、「中世中国の海の認識をめぐって——六朝志怪小説を中心に」、『中国文史論叢』、3号、P246～P227、査読有、2007年

(27) 勝山稔、「近代日本に於ける中国白話小説『三言』所収篇の受容について——明治

時代から大正時代までの翻訳事業を中心として——」、『国際文化研究科論集』、第14号、P122-P138、査読有、2006年

(28) 勝山稔、「中国白話小説の史的価値とその可能性について」、『歴史と地理——世界史の研究』、591号、P26-P34、査読有、2006年

[学会発表] (計22件)

(1) 塩卓悟、「江戸時代における『太平広記』の受容」、小説芸能班第13回公開研究会、東北大学、2010年3月15日

(2) 高西成介、「中国中世の海の認識をめぐって」、中国中世文學會、広島大学、2009年10月31日

(3) 川島優子、「高階正異と『金瓶梅』」、小説芸能班第10回公開研究会、中央大学、2009年7月25日

(4) 勝山稔、「白話小説受容に於ける井上紅梅の位置付けについて——新発見資料を中心として」、小説芸能班第10回公開研究会、中央大学、2009年7月25日

(5) 塩卓悟、「唐宋人肉食考——人肉食をめぐる言説および孝と禁忌との相克——」、洛北史学会大会、京都府立大学、2009年6月6日

(6) 高西成介、「中国人はいかに海をみていたのか——六朝・唐代の小説を手がかりに——」、第54回国際東方学者会議シンポジウム、東京教育会館、2009年5月15日

(7) 塩卓悟、「唐宋人肉食考」、東洋史学研究会、福岡大学、2009年3月1日

(8) 塩卓悟、「唐宋肉食文化史の研究」、関西大学東洋史研究会、関西大学、2009年1月10日

(9) 塩卓悟、「近代日本における唐宋文言小説の受容——静嘉堂文庫所蔵『太平広記』『夷堅志』を中心に——」、小説芸能班第9回公開研究会、高知女子大学、2008年12月7日

(10) 高西成介、「唐代小説に描かれた『海』初探——『広異記』を中心に——」、小説芸能班第9回公開研究会、高知女子大学、2008年12月7日

(11) 川島優子、「金瓶梅を読んだ人たち——鹿児島大学付属図書館玉里文庫蔵『金瓶梅』

をめぐって—」、中国中世文学会、広島大学、2008年10月25日

(12) 勝山稔、「近代日本における白話小説の翻訳文体について——『三言』の事例を中心として——」、にんぷろワークショップ2008、東京大学、2008年7月26日

(13) 川島優子、「江戸時代における白話小説の訓訳——『金瓶梅』を中心として——」、にんぷろワークショップ2008、東京大学、2008年7月26日

(14) 塩卓悟、「羊供給システムから見た10～12世紀の東アジア世界——北宋と遼・西夏との関係を中心に——」、宋代史談話会、大阪市立大学、2008年2月2日

(15) 勝山稔、「近代日本における『三言』所収篇の受容について——戦前戦後を含む1940年代の動向を中心として——」、小説芸能班第6回公開研究会、吹田市民会館、2008年1月14日

(16) 勝山稔、「中国古典小説に於ける現状と課題」、にんぷろワークショップ2007「日本宋史研究の現状と課題」、九州大学、2007年7月21日

(17) 高西成介、「中国中世説話における湖と人間」、生き物文化誌学会第5回学術大会、県立かながわ女性センター、2007年6月22日

(18) 輪田直子、「日本における弾詞受容と『三笑』研究史」、小説芸能班第4回公開研究会、九州大学、2006年12月18日

(19) 勝山稔、「近代日本における『三言』所収篇の受容について——1926年問題から昭和戦前期の翻訳までを中心として——」、小説芸能班第4回公開研究会、九州大学、2006年12月18日

(20) 高西成介、「中国古小説における海をめぐる伝承について」、小説芸能班第3回公開研究会、東北大学、2006年9月22日

(21) 川島優子、「『金瓶梅』の日本伝来及びその受容」、小説芸能班第3回公開研究会、東北大学、2006年9月22日

(22) 勝山稔、「近代日本における中国白話小説『三言』所収篇の受容について——明治から大正時代までを中心として——」、小説芸能班第2回公開研究会、大阪市立大学、2006年7月23日

〔図書〕(計2件)

勝山稔、『中国宋～明代における婚姻の学際的研究』、東北大学出版会、P343、2007年

勝山稔・高西成介・輪田直子・川島優子・塩卓悟、『日本庶民文芸と中国』、勉誠出版、P220、2007年

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.clione.ne.jp/~oh-i/ninpuro/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

勝山 稔(KATSUYAMA MINORU)
東北大学・大学院国際文化研究科・准教授
研究者番号:80302199

(2) 研究分担者

高西 成介(TAKANISHI SEISUKE)
高知女子大学・文化学部・准教授
研究者番号:50316147

川島 優子(KAWASHIMA YUKO)
龍谷大学・文学部・専任講師
研究者番号:30440879

塩 卓悟(SHIO TAKUGO)
関西大学・アジア文化交流研究センター・非常勤講師
研究者番号:80449826

輪田 直子(WADA NAOKO)
石巻専修大学・理工学部・専任講師
(2005～2006年)
研究者番号:90351254